

「ユニセフ集会をしよう ～ユニセフ協力プロジェクト～」

報告者 東京都中央区立城東小学校 奥村 麻衣 先生

1. 活動のポイント

本校では、毎年5月に5・6年生の児童が中心となってユニセフ集会を行っている。この活動は、4月にユニセフハウスを見学し、開発途上国の子どもたちの現状について知ったことをもとに調べ学習を行い、その成果を全校児童に向けて発表するというものである。また、校内や、駅、歩道等の校外に出て募金活動を行い、多くの方々から集められた募金を寄付する活動も行っている。

調べ学習では、児童がユニセフハウスの見学からさらに調べたいことを決め、同じ課題をもった児童同士が2～3名程の小グループに分かれて活動する。活動をする際に気を付けることは次の3つである。

- (1) グループの友だちと役割を分担し、協力して活動すること
- (2) 下学年にもわかるように言葉を精選したり、発表方法を工夫したりすること
- (3) 発表を通して伝えたいメッセージを明確にすること

本活動を通して、開発途上国の子どもたちに対する理解を深めるとともに、人種、民族、国籍等を異にすることで、人権が損なわれることはないという人権教育に基づいた考え方も理解させている。また、友だち同士のかかわり、下学年とのかかわりといった、心と心のかかわり合いを大切にした活動をさせ、望ましい人間関係をはぐくむ力を育てている。

2. 実 践

○ユニセフハウスを見学し、開発途上国の子どもたちの現状を理解する。

(見学内容)

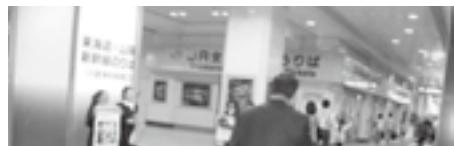
- ・ユニセフのあゆみ
- ・乳幼児の子どもの健康状況について
- ・水と衛生について
- ・学習状況について
- ・子どもの労働について
- ・子どもの兵士について
- ・子どもの権利条約について 等



○ユニセフハウスの見学から、さらに調べたい課題を決める。

同じ課題をもった友だちと小グループになり(2～3名)、調べ学習を行う。課題については、図書やインターネット等の資料も活用し、調べたことをまとめる。

○ユニセフ集会に向けて準備をする。



○校外に出て、募金活動を行う。

校内でも募金を呼びかける。

校外、校内で集めた募金の集計をする。

結果をポスターにまとめ発表する。



○全校児童に向けてユニセフ集会を行い、調べたことを発表する。



3、実践より

子どもたちは、開発途上国の生活と自分たちの生活との違いに驚き、自国の状況がいかに恵まれているのかということを痛感した。調べ学習を終え、発表準備を始めると、グループごとに様々な工夫が見られた。写真や模造紙、紙芝居を使ったグループや、川から水を汲み、運ぶ水瓶の重さを体感させたり、水分補給のための経口補水塩液を作り飲ませたりというグループもあった。児童が自分たちの力で考えを深め、自分たちの思いを形にするためにはどうしたらよいか、試行錯誤する過程が大切であるということを実感した。活動を終えた子どもたちは、「下学年が発表を聞いてくれてうれしかった。」「友だちと、いろいろな意見を出し合うことができた。」「発表の仕方を工夫することができてよかった。」「開発途上国の子どもたちの役に立つことができてうれしい。」など多くの感想が挙がった。

発表を見た下学年の子どもたちが、また翌年活動を継続して行うことで、ユニセフ活動に対する意識を学校全体で高めていくつもりである。